

第1回 第5期石狩市農業振興計画策定委員会 会議録

日時 令和3年7月30日(金)14時00分～15時30分
場所 石狩市役所庁議室(3F)
出席者 小林国之委員長、木村邦博副委員長、熊倉聡委員、八木沼英晃委員、寺西範晃委員、
阿岸哲広委員、羽田美智代委員、長良幸委員、江崎幹夫委員
事務局 石狩市長 加藤龍幸
企画経済部産業振興担当部長 本間孝之
農政課課長 水野智之、農政課主査 袴田正
欠席者 新居久美子委員、久慈貞子委員、大内幸二委員、加藤光治委員、菅野哲哉委員
傍聴者 0名
次第

1. 開会

- (1) 委員委嘱状の交付
- (2) 市長挨拶
- (3) 委員紹介
- (4) 委員長及び副委員長の選任

2. 提言依頼

3. 委員長挨拶

4. 議事

- (1) 第5期石狩市農業振興計画の策定について
- (2) 第4期計画及び施策の評価について
- (3) 農業経営に関する意向調査の実施について
- (4) 石狩市の農業の概要について

5. その他

6. 閉会

=====審議内容の記録(審議経過、質疑、意見等)=====

※ 以下の質疑・意見については、○委員発言要旨、●事務局発言要旨

1. 開会

- (1) 委嘱状交付
- (2) 市長挨拶
- (3) 委員紹介
- (4) 委員長及び副委員長の選任

事務局から、委員長には「北海道大学大学院 小林准教授」を、副委員長には「石狩市農業協同組合 木村営農部長」の提案があり、委員異議なしとのことから選出された。

2. 提言依頼

3. 委員長挨拶

<事務局からの確認事項>

- 策定委員会は、原則、会議と議事録は公開する。
- 議事録については要点筆記とし、委員長が確認した上で確定する。

4. 議事

(1) 第5期石狩市農業振興計画の策定について(※事務局より説明)

- (水野課長)委員会の要綱、委員名簿、計画策定趣旨、スケジュールについて(資料1～3)説明。策定委員会は、全6回の会議と農業者アンケート、パブリックコメントを経て来年3月決定というスケジュールで進めたい。

【質疑・意見】

- (長委員)資料3の5P、策定の趣旨はこれで固まったものなのか。農水省で「みどりの戦略システム」やSDGs等とリンクするよう石狩の農業政策に盛り込めたらと思う。
- (水野課長)詳細については、次回からの策定作業で活発な意見を頂きたい。

(2) 第4期計画及び施策の評価について(※事務局より説明)

- (水野課長)平成29年度に策定した計画では、「地域づくりの基盤としての観光を拠点とした産業振興の推進」を産業振興関係計画の共通テーマのもと、「みんなでつくろう石狩ブランド!地域参加型農業」を本市農業の目指す将来像にかかげ、4つの基本方向から施策を展開してきた。それぞれの施策において、数値目標、重要業績評価指標(KPI)を設定し、計画の進捗状況の把握と振興管理を行っており、令和2年度までの4年間の状況をまとめ、全体的に概ね達成できていると捉えている。(別冊資料「第4期石狩市農業振興計画」「第4期石狩市農業振興計画 施策の評価」)

【質疑・意見】

- (小林委員長)道の駅について、消費者との交流、農産物のPR、石狩という地の利を活かした施策が効果を発揮しているように思うが、生産者の意見を伺いたい。
- (熊倉委員)道の駅には行ったことがない。
- (八木沼委員)農家目線から、他の道の駅に比べ直売が少なく、オープン前のイメージとのギャップを感じた。
- (本間部長)厚田、浜益の農家は水田主体で参加する農家が不足していた。現在は、当初に比べ特産品も増え、スペースも少しずつ増えてきている。
- (羽田委員)行く度違う農産物がある。市内には農協が2つあり何処の地域の生産かわからない。
- (長委員)農産物の運搬が課題で、それが解決すれば農業と道の駅がうまく結びつくと思う。
- (阿岸委員)夕日が沈む時に店が閉まっていたり、夜間に看板照明がなかったり、直売スペース

が狭かったり、もったいない使い方をしている。出来るやり方で考えていくべき。

○(羽田委員)第4期の計画では4つの基本方向があったが、第5期もこの方向に沿って策定するのか。また、評価について、議会等にかかった結果なのか。

●(水野課長)現計画期間は今年度までであるため公表はしておらず、現段階までの評価を担当課として示したものである。基本方向などの決定については次回以降の委員会で意見を取り入れながら進めていきたい。

○(江崎委員)農泊を通じた、グリーンツーリズム、農村交流人口を増やすための農業体験や地域体験を計画に取り入れて頂きたいと思う。

○(小林委員長)評価の基本方向1の新規就農者の実績の数は、農外からの新規参入や農家子弟型の、Uターン就農や新規学卒も含めたものか。

●(水野課長)実績は、親元就農も含めた新規参入、Uターン就農等全ての数である。

○(小林委員長)担い手の確保は北海道農業の全体の大きなテーマであり、エコファーマー、環境保全型農業など今後に向けた取り組みで生産者から意見があれば頂きたい。

○(熊倉委員)農協青年部で、今年度からのスマート農業の検討事業を始めたが、導入費用が高く、助成が一番欲しい。

○(八木沼委員)厚田ではドローン使用が増え、購入やメンテナンスの助成があれば更に動きやすくなると思う。

○(小林委員長)産地パワーアップ事業など国庫補助事業を活用し、農協中心になって取り組む地域もある。

○(木村副委員長)スマート農業と言っても、多種多様でどんなスマート農業が石狩に合っているかを、農協も模索しながら今進めている状況で、市の振興計画がマッチするとさらに加速していくと思う。

○(長委員)農業機械は高く更新が難しい。スマート農業は良いが山間地では無理だと思う。

○(阿岸委員)厚田、浜益は沢沿いに農地があり、基地局がないのでGPSトラクターがまともに使えず利用価値が下がっていると思う。基盤整備も含めたハード面にも力を入れていかなければと思う。

○(寺西委員)生産基盤に対しても、担い手対策と同様に助成があれば、もう少し安定出来るかと思う。それがあって、グリーンツーリズムや観光、直売等、魅力ある農業へのつながりが出てくると思う。

○(羽田委員)農地や農家の減少は、これからの食に対して危機感を持っているので、新規就農を含め支援する施策、市民に訴えていく計画でなければならないのではないかと思う。

○(小林委員長)新規就農や農地の適正利用などの支援、仕組みが盛り込めればすごく魅力的な振

興計画になるし、新規就農対策を市としてどういう風に見せていくか、イメージ戦略として非常に重要なポイントになるかなと思う。

(3) 農業経営に関する意向調査の実施について(※事務局より説明)

●(袴田主査) 農業経営意向調査について、農業経営の現状や考え方を調査し、計画策定に反映させるため、前回の調査項目との比較も踏まえ案(資料4)を作成した。市内全農業経営者を対象に調査票を発送し10月上旬までの回収をお願いする。委員のご意見等を踏まえ、整理した調査票を次回、委員会で回り、調査を進めたい。

【質疑・意見】

- (羽田委員) 前回の回答率が低すぎると思うが、配布方法とか、どういうふうに考えていくのか。
- (袴田主査) 前回は、回収が稲刈り時期と重なり低かったように思う。回答率を上げるためWEB回答も併せて検討している。
- (長委員) 農協の力を借りるなどの戦略が必要になると思う。

(4) 石狩市の農業の概要について(※事務局より説明)

●(袴田主査) 石狩の農業概要について(別冊「いしかりの農業(令和3年度版)」)説明。
※委員からの質疑無し

5. その他(※事務局より説明)

- (袴田主査) 会議出席に係る報酬等について
口座登録と所得税控除に係るマイナンバーの提供について、必要な方は事務局に申し出頂きたい。
- (袴田主査) 次回の開催日程について
8月下旬から9月上旬を予定しているが、新型コロナウイルスの感染状況によっては、日程や開催方法に調整する場合がありますのでご理解願う。

6. 閉会

令和3年9月1日 議事録確定

第5期石狩市農業振興計画策定委員会

委員長 小林 国之